

JANTRA によるネパール国家結核対策プログラムへの貢献

JANTRA (日本ネパール保健結核研究会)

カントリーディレクター ラム シャラン ゴパリ

(翻訳: JATA ネパール事務所
シャヒ リチャード)

結核はネパールでは今も主要な感染症の一つで、高い罹患率と死亡率を示しています。結核の罹患率と死亡率は、1996年に国際協力機構(JICA)の支援を受けてDOTSが開始されて以来、減少してきました。しかし、その罹患率減少は容認できないほどのペースで鈍化しています。ネパールでは毎年約69,000人もの新規結核患者が発生していると推計されています。国家結核プログラム(NTP)には28,677件(ネパール年次の2020年7月16日から1年間)の患者が報告されるに留まっています。ネパール政府は、結核根絶戦略の枠組みの中で全ての医療提供者を結核対策に関与させることにより、2050年までに結核を終息させることを目指しています。

JANTRA (Japan-Nepal Health and Tuberculosis Research Association: 日本ネパール保健結核研究会)は、2008年にネパール社会福祉法に基づき、公益財団法人結核予防会結核研究所の財政的・技術的支援を受けて設立されました。JANTRAは設立以来、効果的な結核対策と都市部の結核ボランティアの動員を通じ

て、都市部の結核対策、特に医療サービスを受けない人々の結核対策に関与してきました。JANTRAは、地元のパートナーやその関係団体と緊密に連携し協力しています。

JANTRAは、グローバルファンドや結核リーチプロジェクトの資金を活用して、結核患者の糖尿病に関する研究など、カトマンズ盆地における様々な結核プロジェクトを実施してきました。イントレピッド・ネパールという団体との共同パートナーとして、全国結核有病率調査も実施しました。JANTRAは、NTPに積極的に貢献してきた主要なメンバーであり、NTPパートナーとして広く認知されています。さらには、JANTRAの主要スタッフは、結核専門家作業部会のメンバーにも選ばれています。JANTRAは様々なレベルの公的医療機関、地方自治体の保健ユニット、民間医療機関、民間薬局やコミュニティ・ボランティアなどの主要な保健医療関係者、および政府機関と連携して結核対策に関わっています。

JANTRAが得意とする手法は、普及啓発、アドボ



女性コミュニティ・ボランティアの定例の結核会議における一コマ



コミュニティ・ボランティアによる5歳未満小児の栄養判定のための体重測定

カシー、人権、ジェンダーなどを含むコミュニティの保健システム強化です。患者会の結成や結核患者との定期的な会合を通じて、治癒した結核患者自身による体験談などのスピーチも含まれています。能力開発と人材を含む資源の効果的な動員は、JANTRAの結核関連活動の成功の鍵となっていますし、スラム街、学童に焦点を当てた様々な意識向上活動を実施しています。JANTRAは、結核に関連する行動変容のためのコミュニケーションツールや健康教育教材の開発にも多くの経験を持っています。さらに、JANTRAは、コミュニティでの結核キャンペーンの開催、顕微鏡キャンプと呼ばれる患者発見活動、国立結核対策センターが毎年開催する世界結核デーでの普及活動などにも関わっています。

現在、JANTRAはグローバルファンドの資金を得て、バグマチ州とガンダキ州の都市部から農村部までをカバーし、しかも、公的および民間の両方の保健セクターを巻き込む、学際的かつ多面的な結核プロジェクトを実施しています。主な活動は、塗抹検査や

GeneXpertによる結核菌検査を実施するための喀痰収集・搬送、結核患者の接触者検診、小児結核の診断と医療の確保、民間薬局からの結核疑い患者紹介、民間医療機関の結核対策への巻き込み、5歳未満の小児へのLTBI治療などです。

JANTRAは、ネパールの都市部や農村部で生活する社会的に弱い立場の人々の健康向上に役立つために、結核やその他の感染症に関する日本からの貴重なご支援を最大限に生かすよう常に心がけています。また、JANTRAは、これまでの日本政府と日本の皆様の協力と貢献をネパール政府に積極的に伝えることを通じて、ネパールと日本の間に強固な架け橋を築く上で重要な役割を果たしたいと考えています。🍵



JANTRA スタッフによるフィールドでの喀痰回収の様子